

演題番号：A7

待ち受け型病原体侵入防止資材(ヨドックス粒)の開発

○加藤あかね，井上巖夫

京都府畜産センター

1. はじめに：高病原性鳥インフルエンザは、令和4年度の国内殺処分羽数が過去最多の1,700万羽を超え、養鶏農家の最大の脅威。農家での待ち受け消毒は消石灰散布が実施されているが、より安全で省力的な除菌剤の開発が必要。

2. 材料及び方法：(1)産学公で開発した除菌剤ヨドックス粒(以下、「Io」)を、冬期の環境を模した恒温器内でウイルス不活化効果の持続性を調査(室内試験)。(2)当センターの鶏舎周囲にIoを散布、2週毎に検体を回収し、ウイルス不活化効果の持続性を調査(野外試験)。(3)運用コストを試算。

3. 結果：(1)消石灰のウイルス不活化効果が2週間、Ioは8週間であることを確認。(2)散布済みの消石灰にクエン酸溶液を散布し酸度矯正したところ、Ioは野外でも8週間ウイルス不活化効果を確認。(3)周囲長150mの鶏舎(1万羽規模)に2か月散布した場合のコストは、Ioが81,500円、消石灰が30,000円で2.7倍多くかかるが、消石灰よりも1/4の労力で散布が可能。また、強アルカリ性の消石灰よりも埃の飛散が少ないため安全性が高く、自然になじむ色合いのため、動物園等景観に配慮が必要な場での使用にも適する。消石灰を散布しにくい民家に近い鶏舎や動物園等に用いることで地域の

バイオセキュリティレベルの向上が期待できる。現在、府内2か所の動物園での散布実証試験を実施中。

4. 今後の方向：運用コストの低減を目指し、酸度矯正による効果時間の延長と普及の促進を目指す。